

第2次茅野市スポーツ推進計画（案）に係るパブリックコメントにお寄せいただいたご意見と市の考え方について

第2次茅野市スポーツ推進計画（案）に対するパブリックコメントを実施したところ、下記のとおり貴重なご意見をいただきました。

これらのご意見について、要約・集計し、それらに対する市の考え方をまとめましたので、公表いたします。
なお、計画と直接関係ないと考えられるご意見については、公表していません。

パブリックコメントの実施状況

1 意見の募集期間 令和6年1月16日（火曜日）から2月15日（木曜日）

2 意見の受付数と件数 (1) 受付数 8通

(2) 件数 11件

3 意見の提出方法別通数

提出方法	電子メール	郵送	ファクシミリ	持参	計
人（団体）数	7通	0通	0通	1通	8通

第2次茅野市スポーツ推進計画（案）に対するパブリックコメントの結果について

計画に対する意見の概要と市の考え方

	該当する項	いただいたご意見の概要	市の考え方
3	2 ページ 基本理念の文言について	基本理念のテーマはスローガンのようなものであり、もっと短くしてもよいのではないか。	短くすることにより伝わりやすくなる半面、当計画の趣旨が不明瞭となる恐れがありました。 よって、「市民1スポーツ」をキャッチフレーズとし、基本理念には「豊かなスポーツライフ」、「生涯」、「健康」を入れ込み、当計画の趣旨を一文にしています。
8	5 ページ以降 地域における子どものスポーツ機会の充実について	スポーツ実施の有無において二極化が進んでいる。スポーツに参加したいができない子どもが非常に多い。主な障壁は保護者の送迎である。子ども向け公共交通の整備に向けた研究及び検討を望みます。	長野県及び茅野市が令和 5 年度に実施した中学校の部活動に関するアンケート調査においても移動（保護者の送迎）が課題との回答が目立っています。 子どもの体験機会を保障するため、オンデマンド交通の活用も含めて、当面は中学校の部活動の地域移行に関する子どもの移動について検討していき、子どもの体験機会の充実を図っていきます。 併せて、子ども達が参加しやすいスポーツ教室やイベントの開催方法についても検討していきます。

5	<p>9・11 ページ 中学校の部活動の地域移行について</p>	<p>地域全体の課題であるならば保護者の意見を聞くことも重要であると考える。</p>	<p>地域スポーツの推進を目的に令和5年度に設立した茅野市スポーツ推進協議会内に、中学校の運動部活動の地域移行に関する専門部会を設置し、具体的な検討を進めています。</p> <p>令和6年2～3月にかけて、中学1・2年生とその保護者、小学5・6年生とその保護者並びに中学校教職員を対象に中学校の部活動に関するアンケート調査を実施しました。結果については今後公表する予定です。</p> <p>また、今後説明会などを通じて、保護者の意見も聴取していきます。</p>
6	<p>9・11 ページ 中学校の部活動の地域移行について</p>	<p>他地域では大学と連携している自治体もある。茅野市でも参考としてはどうか。</p>	<p>国から示された中学校の部活動の地域移行に関するガイドラインにおいても、地域の大学や関係機関と連携していくことが望ましいとされています。茅野市でも各種関係機関との連携を模索していきます。</p>
4	<p>10 ページ以降 子どものスポーツ活動への参加促進について</p>	<p>子どもがスポーツをするには保護者の協力が必要不可欠である。子ども自身の「やりたい」という強い気持ちがあれば保護者の協力への後押しとなる。子ども達が「やりたい」との思いに至る体験会やイベントの開催を望みます。</p>	<p>ご指摘のように子ども達のスポーツ実施には送迎や金銭負担など保護者の協力によって成り立っている部分が多いのが実情だと考えられます。</p> <p>子ども達にとって魅力的なイベント等の開催に向けて今後検討していきます。</p>

7	13 ページ ライフステージに応じたスポーツ活動の充実	男性高齢者は生涯スポーツの実施率が非常に低いので、啓蒙活動をお願いしたい。	生活習慣病予防、医療費の抑制、フレイル・介護予防等の観点から、高齢者の運動・スポーツを通じた健康づくりに取り組む必要性については当計画の現状と課題でも記載しました。 庁内の関係部署や各種スポーツ関連団体並びに公民館等と連携しながら高齢者のスポーツ実施率の向上に取り組んでいきます。
9	19 ページ スポーツ施設の在り方について	市の財政的な課題もあるが、市民のための公園整備は意義のあることである。 ネーミングライツや民間事業者との賃貸借契約等の多様な財源確保のための取組みについて前向きな検討を望みます。	施設を維持していく上で財源の確保は重要であり、当計画でもネーミングライツや企業版ふるさと納税を例に挙げて民間企業との連携促進の検討を設定しました。 今後も使用料収入以外の財源の確保について模索していきます。
10	19 ページ スポーツ施設の在り方について	現運動公園にこだわらず、スポーツ施設の移転新設の検討を望みます。	茅野市公共施設等総合管理計画では、公共施設について、将来人口や財政規模などに応じた施設総量の縮減が必要となるため、施設の新規整備は原則行わないこととしています。 また、茅野市は現在行財政改革に取り組んでいるところであり、その中で公共施設の維持管理及び再編計画は重要な課題となっています。 現段階で、施設の新設は困難であることをご理解ください。

11	19 ページ 公共施設の利便性の向上について	施設使用料の電子決済を導入するなど、利用者の利便性やホスピタリティの向上を望みます。	「公共施設の利便性の向上」を施策の展開に設定し、電子決済等の導入による利便性の向上を掲げています。職員のホスピタリティの向上にも努め、利用者の満足度を上げるにより、施設の利用促進を図っていきます。
1	19 ページ 市民に親しまれる公園としての環境整備について	運動公園が誰でも訪れたい空間となることを目指すために、実施主体にスポーツに限らない利用促進を考案できる部署を追加していただきたい。	運動公園の日常的な管理者であるスポーツ健康課と地域スポーツの中核団体であり、施設利用のメインユーザーである NPO 法人茅野市スポーツ協会を実施主体としました。運動公園にはウォーキングや自然散策など様々な目的を持った来訪者がいます。誰もが気軽に訪れたい公園となるよう他部署との連携も含め、多様な視点を持って環境整備を進めます。
2	22 ページ 地域の独自の魅力を通じたスポーツの活性化について	ウィンタースポーツだけを当地域独自の魅力あるスポーツとして誇張する必要はない。 ジョギングやサイクルスポーツも通年して当市の環境ならではの魅力を発信するスポーツであると考えます。 利用者層や季節を限定することなく、地域の独自性や魅力を発揮した活性化策を計画に盛り込むべきではないか。	ウィンタースポーツについては他地域と差別化できる当地域の特色あるスポーツとして盛り込みました。 一年を通じて市内各地にて、市内外から多くの参加者が集まるスポーツイベントが数多く開催されており、茅野市の魅力発信に寄与していただいています。スポーツ施設を利用した競技種目に限らず、トライアスロンやサイクルスポーツの大会等も開催され、多種多様なスポーツが当地域で行われています。今後も各種スポーツ関連団体等と連携しながら、当地域ならではのスポーツの魅力発信に取り組んでいきます。

